

東日本大震災
浄土真宗本願寺派東北教区ボランティアセンター設置について

浄土真宗本願寺派東北教区教務所(仙台別院)に「東日本大震災浄土真宗本願寺派東北教区ボランティアセンター」を開設し、浄土真宗本願寺派関係のボランティアの活動支援を行います。

東北教区災害ボランティアセンター
〒980-0824 仙台市青葉区支倉町1番27号
電話 022-227-2193
FAX 022-227-2193
E-mail: touhokukyouku@asokakids.com

活動内容

1. ボランティア活動に関する情報の収集と提供をします。
 - ①被災寺院・門信徒からの支援要請(人的・物的)の収集と提供
 - ②現地ボランティアセンターへの活動支援・情報交換
 - ③現地ボランティアセンターの受け入れ等の情報提供
 - ④交通手段・移動方法等の情報の収集と提供
2. 支援物資の要望と受け入れの連絡調整をします。
3. ボランティア活動に参加する方への支援活動を行います。
 - ①ボランティアの宿泊施設への受け入れに関する連絡調整事務
仙台別院 定員: 男性 40名 女性 20名
 - ②ボランティア希望者・団体の受け入れに関する連絡調整
 - ③ボランティア保険等の事務手続き
4. 浄土真宗本願寺派現地緊急災害対策本部との連絡調整をします。
5. 継続的取り組み及び組織的取り組みに関する連絡調整と資料・情報収集をします。
6. その他必要と思われる事項

災害ボランティア活動の概要

災害時のボランティア活動について

近年の台風による風水害や地震災害時には、災害救援ボランティア活動が大きな力を発揮し、ボランティア活動が果たす大きな役割の一つとなっています。

災害救援ボランティア活動には大きな期待が寄せられますが、一方で、ボランティア活動が被災地の人々や他のボランティアの負担や迷惑にならないよう、ボランティア一人ひとりが自分自身の行動と安全に責任を持つ必要があります。

ここでは、災害救援ボランティア活動に参加する際の基本的な注意事項についてご案内します。災害救援ボランティア活動への参加の参考としてください。

1. 災害救援ボランティア活動は、ボランティア本人の自発的な意思と責任により被災地での活動に参加・行動することが基本です。
2. まずは、自分自身で被災地の情報を収集し、現地に行くか、行かないかを判断することです。家族の理解も大切です。その際には、必ず現地に設置されている災害救援ボランティアセンターに事前に連絡し、ボランティア活動への参加方法や注意点について確認してください。被災地での活動は、危険がともなうことや重労働となる場合があります。安全や健康についてボランティアが自分自身で管理することであることを理解したうえで参加してください。体調が悪ければ、参加を中止することが肝心です。
3. 被災地で活動する際の宿所は、ボランティア自身が事前に被災地の状況を確認し、手配してください。水、食料、その他身の回りのものについてもボランティア自身が事前に用意し、携行のうえ被災地でのボランティア活動を開始してください。
4. 被災地に到着した後は、必ず災害救援ボランティアセンターを訪れ、ボランティア活動の登録を行ってください。
5. 被災地における緊急連絡先・連絡網を必ず確認するとともに、地理や気候等周辺環境を把握したうえで活動してください。
6. 被災地では、被災した方々の気持ちやプライバシーに十分配慮し、マナーある行動と言葉づかいでボランティア活動に参加してください。
7. 被災地では、必ず災害救援ボランティアセンターやボランティアコーディネーター等、現地受け入れ機関の指示、指導に従って活動してください。単独行動はできるだけ避けてください。組織的に活動することで、より大きな力となることができます。
8. 自分にできる範囲の活動を行ってください。休憩を心がけましょう。無理な活動は、思わぬ事故につながり、かえって被災地の人々の負担となってしまいます。
9. 備えとして、ボランティア活動保険に加入しましょう。

災害ボランティアの注意事項

〈〈出かける前の準備をしっかり〉〉

情報収集、体調管理、食事や情報収集、体調管理、食事や就寝場所の確保、交通費の確保など。

〈〈被災者の立場に立った活動を〉〉

あいさつや言葉遣い、約束を守るなど、基本的なことを大切に。

〈〈自分で考えて〉〉

周囲の様子をよく見て、自分ができることをやってみる。

〈〈ルールを守って〉〉

勝手な判断はせず、グループで相談する。困ったらボランティアセンターに相談して。

〈〈断る勇気を持つ〉〉

危険なことやできないことは、できないとはっきりと。

〈〈思い込みをしない〉〉

報道などの情報から勝手な思い込みをしないこと。

〈〈地域住民の自立を支援〉〉

被災者に協力して一緒に復興を目指す。

ボランティアの服装・持ち物について

服装や携行品は、災害の種類や規模、ボランティア活動を行う時期によって異なりますが、基本的なものをご紹介します。

1 服装 ケガ防止のための長袖・長ズボン(短パンはダメです)

(吸湿性・通気性の高いもの)

(汚れてもいい服装)

2 長ぐつかズック(天候によって判断してください。) 長ぐつを長時間履いていると、くつ擦れを起こしやすいので、厚手の靴下とセットで用意しておくといい。

3 帽子

直射日光をさえぎる (日射病・熱射病対策)

4 マスク

粉塵を吸い込まないようにするため。活性炭入りの防塵マスクなどなら、泥や消毒剤の臭い消しにも役立つ。

5 もちもの

- ・軍手(ガラス等の場合は革手袋)
- ・ゴム手袋(すべり止めがついた厚手のものがよい)...用意できたら
- ・タオル(数枚持ちましょう)...自分で使うもの
- ・着替え(活動が終わったら着替えた方がよいでしょう)
- ・雨合羽(小雨でも活動する機会が多い)
- ・薬(目薬やうがい薬を持っていきましょう)
- ・食べ物・飲み物(自分で昼ご飯を用意(腐りにくいもの)
- ・飲み物を用意(こまめに水分補給、塩分が入ったスポーツドリンクなどが最適)

6 宿泊の場合

- ・寝袋、食事、洗面具等必要なもの。 ※仙台別院には、風呂がありません。

ボランティア活動にあたって

●依頼者のお宅や避難所に着いたら

- ・「災害ボランティアセンターから来ました」と伝えてください。
- ・作業の内容を確認してください。
- ・室内の場合は、靴を脱ぐか、土足のままか確認をしてください。
- ・依頼者の気持ちを尊重しながら活動を行ってください。

●活動の注意

- ・判断に困ったときは、当ボランティアセンターへ連絡してください。
電話 022-227-2193(東北教区災害ボランティアセンター)
- ・1時間に10分程度、休憩を取りましょう。
- ・安全には十分注意してください
- ・危険な場合や手に負えない場合は、断ってください。
- ・昼食をはさんでの活動が見込まれる場合は、各自で調達してください。
- ・ガラスを撤去する際は、革手袋を着用してください。
- ・災害によって発生したゴミは、分別をきちっと行ってください。
- ・活動に使用する活動車両は、駐車場も含め、各自の責任でご使用いただきますようお願いいたします。

●活動が終わったら 17:00 までに、当ボランティアセンターに戻ってきてください。

- ・依頼者に、作業終了の確認をお願いしてください。
- ・半日で活動が終了したときは、当ボランティアセンターに連絡してください。
- ・当ボランティアセンターに戻る前に、明日以降の活動継続を希望されるかどうかを依頼者に確認してください。
⇒希望があった場合は、活動報告提出時にボランティア要請表を記入してください。
- ・けがをした人は、本部に報告してください。
- ・当ボランティアセンターに戻り、資材を返却してください。
- ・全員が当ボランティアセンターに戻った後、打合会で当日の活動状況、明日の予定などを確認します。

●怪我をしたとき

- ・リーダーに報告してください。
- ・ひどいときは、救急車を呼び、ボランティアセンター本部に連絡してください。
- ・救急車を呼ぶほどではないときも、ボランティアセンター本部に連絡してください。

お疲れ様でした。

※ご意見をお聞かせください。今後の参考にさせていただきます。